【訪問介護の上乗せ補助、専門職、ボランティアの確保】

Ｈ：　当社協の日頃の取り組みですが、児童福祉から高齢者福祉まで幅広く事業を展開しております。児童福祉においては、現在保育所３園、放課後子ども教室を２ヶ所、それから子育て支援センターの運営をやっております。それとチャイルドシートの貸し出し事業と、児童福祉関係ではそのような業務をやっております。

高齢者福祉の関係では、介護保険事業所として訪問介護、居宅介護支援ケアマネージャー、それから通所介護、デイサービスセンターを３ヶ所、それと訪問入浴事業をやっており、特に福祉の関係では給食配食事業として、毎週月・水・金の夕食をボランティアに協力いただきながら配っており、配食数は、大体年間１万１０００食を超えております。仁淀川町はかなり広い所ですが、配食事業によって、１万１０００回は安否確認ができたということです。

それから地域の交流、集いということで、生きがいデイサービスを２００回、自主的なサロンとしてふれあいサロンを５８回開催しております。

活動の中での課題ですが、介護保険事業自体では、特に訪問介護が毎年赤字が続いています。１日８時間労働として、移動時間というのは介護報酬が発生しない部分ですが、その移動時間が大体２時間から３時間費やしておりますので、当然、訪問件数にも限界が来ております。

それと、うちも保育・介護の専門職の確保が難しくなってきており、なかなか運営面で全員を正職員に採用できるはずもなく、臨時、パート職員で対応をしておりますが、この前保育士の募集を新聞に出したり、職安にも出しましたが１件も問い合わせがなくて、地域的にも遠いので、なかなか有資格者がこちらのほうまで来てくれない状況です。

それと、社協の事業へのボランティアの確保が非常に重要ですが、不足しており、今は何とかできても、これから困っていくんじゃないかなと思っています。集落には人がいなくなってきており、仁淀川町も３年前からいいますと５００人ほど人口が減っております。高齢化率も高くなってくる現状ですので、ともに支えるということが本当に難しくなってきているのではないかなとすごく感じております。

この中でも今後の取り組みとして、こんな形で地域づくりができたらいいなということで、最後にお話しさせてもらいます。以前、私の子どもの保育園で、クリスマス会に保護者の代わりに老人クラブの会長さんがサンタクロース役を気軽に受けてくれましたが、そうすると子どものほうから、今年は本物が来てるよという声が出て、なかなかこの企画はよかった、当たったなと思いました。

それから１７、８年経った今も続いていますし、また保育園のほうからも他のいろんな行事に老人クラブへ声もかけていただいて、今は行事のスタッフとして非常に保育園も助かっているし、老人クラブの会員さんもやり甲斐があると聞いております。こういった活動をきっかけに社協がアクションを起こしてやっていけたらいい方向に進んで、町が元気になっていけたらいいなと思っております。

知事：　お話のように訪問介護事業が毎年赤字というのが、本当に大きな課題ということで、今回、調査協力していただいて、訪問介護についての県単独での上乗せ補助の制度を設けたところですけれども、本当にデータ集めなどでお世話になりまして、仁淀川町の皆さんありがとうございました。

これは、特別地域加算されているものに、さらに上乗せで距離別に応じて、特別の加算をするという制度で、ある意味高知県独自の、日本初の制度ではあるんです。正直この制度を本当は１年前にやりたかったんですが、どうしても定量的な分析というのがしきれないということで、去年１年かけていろいろ調査にご協力いただいて、分析をして、今年度から加算をしているところです。２３年度に実施をしていく中で、もう一段検証しないといけないと思っているんです。実践していきながらよりバージョンアップしていきたいと思っています。また、是非いろいろご指導いただけますよう、よろしくお願いしたいと思います。

専門職の確保、ボランティアの確保の課題という話については、今回、県の社会福祉協議会を強化しました。福祉人材センターと県の研修センターというものを作っています。この福祉人材センターの大きな仕事というのが、いろんな専門職の方々の育成とマッチング支援だと思っていまして、例えば福祉の分野のやる気を持っておられる方を、県域全体でマッチングする場をできるだけ設けていくことで、少しでも人の確保ができるようにという取り組みをしていきたいと思っています。これが本当にうまくまわるといいと思っています。

ボランティアの確保の課題という話になってくると、釈迦に説法になってしまって恐縮ですけれど、地域で話し合っていただいて、多くの人がやる気になっていく体制づくりだと思います。今年度から地域福祉活動計画というのを地域地域で作っていき、この過程で、地域の課題に応じた福祉のありようというのを地域の皆さん同士で話し合ってもらって計画づくりをしていっていただきたい。いわば、産業振興計画における地域アクションプランの福祉版みたいなものだと思うんです。

進めていっていただく過程の中で、いろいろなボランティアをやってもかまわないと言っていただく方を巻き込んでいくこととか、さらには人材センターを活用していただくこととか、さらに社会福祉協議会に作る研修センターで一緒に研修を受けていただく中で仲間作りしていただくなど、そんなに簡単な課題ではないと思うんですが、県の社会福祉協議会を一連の問題を解決していくための１つのエンジンにすべく組織強化をしていきたいと思っています。ただ、本当に地に足のついた対策になっているかどうかという辺りは、ちょっとこの１年でもう１回この新しい仕組みがうまく回るか検証したいと思っています。またいろいろ教えていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

保育所のクリスマス会の企画、当たりでよかったですね。ポイントとなるところは、本当に世代間の交流ができるところじゃないかと思います。あったかふれあいセンターも、本当に高齢者の皆さんも子ども達も１ヶ所で集えるっていうところに一つねらいを置いて

いて、そこは多くの方にそれなりにウェルカムしていただいている理由じゃないかとも思うんです。ただもう１つ、今年度、実はあったかふれあいセンターをもう一段機能強化というか、前方展開できればと考えています。「集う」という機能に加えて「訪問」したり、それから、例えばお話にあった給食の配食などを通じての「見守り」、「安否確認」ということなんかも含めて、より前方に展開できるような形にできないかなということを考えているところなんです。そういうことで、地域の皆さんの支え合いの力を強化することを進めていきたいと思ってます。

今回、東北の震災でいろいろ援助を受けて復旧、復興のステージに立ち向かっていかれているスピードの速い所というのは、やっぱり地区の支え合いの力が強い所ですね。例えば、地区会の制度が強力で、地区長さんがしっかりと地域の復旧、復興にあたっていろいろ支えておられるということがあるんだということを伺ったところなんです。私、明日(4/23)からちょうど気仙沼へ行ってくるので、そんなところでもまた話を聞かせてもらいたいと思っています。日本一の健康長寿県構想でもって地域の支え合いの力をしっかり作り上げていくことが、いざというときの防災体制、それから復旧・復興の体制に即つながっていくようにということを、高知県では、是非考えて進めていかないといけないと思っているところなんです。